

中世の武士たちと「まちづくり」の礎



武士たちが八王子のまちに

遺したものは？

江戸時代以降、多摩地域における代表的な商業都市として発展した八王子。その発展の礎は、中世以降に八王子で活躍した武士たちによって築かれたといえるでしょう。武士たちが、覇権を争った戦乱の中で、八王子のまちづくりの礎として遺したものを探ってみましょう。



八王子城跡 御主殿庭園状遺構

八王子には、八王子城、滝山城をはじめ、初沢城、片倉城、浄福寺城、高月城など、多くの城が築られました。横山党、長井氏、梶原氏などの武士、武蔵守護代をつとめた大石氏、戦国大名の北条氏などが、平安時代末期から戦国時代にかけて、八王子を勢力範囲にして活躍しました。彼らは、乱世の栄枯盛衰の中で、防衛拠点として、そして生活拠点としての城館を八王子に築きました。

関東の覇者となった北条氏康の三男氏照は、小田原北条氏の支城として最大級の城郭を深沢山に築きます。ここには守護神として八王子権現を祀っており、八王子城の名はこれに由来するといわれています。

滝山城下には、宿が設けられ、城下町が整備されていたようです。氏照が居城を八王子城に移す際には、城下町も移し、難攻不落の堅城を築城するとともに、町や宿などの都市基盤の構築にも力を入れていました。八王子城の城下町は、落城後に現在の八王子市街地に移され、八王子宿がつくられました。



滝山城跡 池跡南側の堀



八王子いちょう祭り 甲冑隊

八王子に登場した 武士たち

平安時代末期から戦国時代にかけて、横山党をはじめとする武士たちが八王子を拠点にして活躍しました。彼らは戦乱下で盛衰を繰り返しながらも、城館を築き、集落や交通路を整備していき、やがて「八日市場」のような経済拠点が形成されました。中世の武士たちが築いたまちづくりの礎は、江戸時代の大久保長安による宿場づくりに引き継がれ、現在の商業都市の発展につながっていきました。

10世紀

横山党…万葉集の地名「横山」を称する武士団

- ・八王子に初めて現れた武士団で、武蔵七党の一つ
- ・船木田荘(横山荘)の成立に関与
- ・鎌倉時代初期に起きた和田合戦で和田方に味方し没落



横山神社 (八幡八雲神社内)

13世紀

大江流長井氏…「横山」支配の継承者

- ・鎌倉幕府政所別当大江広元の流れを汲む武家
- ・大江師親が廣園寺を創建
- ・片倉城を築城したと伝えられている



廣園寺

14世紀

梶原氏…横河郷の開発と八幡勧請

- ・鎌倉御家人梶原景時の末裔で室町幕府奉公衆の一族
- ・八幡神社を勧請して「梶原杉」を残す
- ・後の「八幡宿」名称のルーツか？



八幡神社 (元八王子町)

15世紀

大石氏…戦乱下に進出した新支配者

- ・関東管領・武蔵守護山内上杉氏の重臣
- ・浄福寺城、高月城、滝山城を築城したといわれている
- ・下原鍛冶を招致したといわれている



浄福寺城跡

16世紀

北条氏照…八王子「三宿」の創始者

- ・戦国大名北条氏康の三男
- ・江戸時代以降の宿場町の基盤となった横山・八日市・八幡の三宿を滝山城下・八王子城下に築いたといわれている
- ・市名の由来となる八王子権現を八王子城の守護神とした



八王子城跡



北条氏照ってどんな人？

北条氏康の三男で小田原北条氏第4代当主氏政の弟。北条氏一族として軍事・外交面で活躍、勢力拡大に貢献しました。その一方で笛の名手であったとも伝えられ、「月夜峰」の地で家臣とともに宴を催し、獅子舞を見物したとの伝承が残されています。

下原鍛冶 ～武州・下原刀～

永正元年(1504年)の長井氏滅亡後、浄福寺城(下恩方町)に大石氏が拠点を構え、城下には「上宿」という町場(城下町)が形成されたと考えられています。この城下町には、刀鍛冶をはじめとする職人が招致されており、城の北東にあたる^{へんな}辺名(下恩方町)は「下原刀鍛冶発祥の地」(市指定史跡)として現在に伝わっています。

相州鍛冶の流れを汲む初代山本周重が鎌倉から移住し、のちに下原に居住して「下原鍛冶」と呼称されました。この下原鍛冶が製作した刀や槍などを下原刀といいます。初代周重が当地に移住してきた時期は、16世紀前半のことであろうと推測されています。2代周重は、のちに康重と改名しており、北条氏康から「康」の一字が与えられたと考えられます。周重の次男照重は、住居を横川村に移して別家を立て、その名は北条氏照から「照」を与えられたようです。八王子城が落城した後も、下原鍛冶は徳川氏から北条氏以来の権利を認められ、幕末まで続きました。



下原刀の「脇指(武州住照広)」(市指定有形文化財〈刀剣〉)

北条氏照が居城とした 滝山城と八王子城

滝山城

滝山城は、多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵上に築かれた全国でも有数の中世城郭です。もともと大石氏の居城で、大永元年(1521年)に大石定重によって築かれたといわれています。その後、北条氏が関東に進出すると、大石氏の養子となった北条氏照が城主となりました。現在見られる大きな空堀や馬出は、氏照時代に大改修されたものです。永禄12年(1569年)には武田信玄の攻撃を受け、二の丸まで攻められています。その後、豊臣秀吉による天下統一の機運が高まる中、氏照は新たに八王子城を築き、滝山城から拠点を移しました。



滝山城跡（国指定史跡）



八王子城跡（国指定史跡）

八王子城

八王子城は、戦国時代の山城で、関東地方を領していた北条氏最大の支城です。標高460メートルの眺望のよい深沢山の頂に本丸が築かれています。築城の時期ははっきりしていませんが、天正10～15年(1582～87年)ごろに、北条氏照によって築城されたといわれています。しかし、天下統一を目指す豊臣秀吉と北条氏は衝突し、天正18年(1590年)6月23日、秀吉方の武将である前田利家・上杉景勝の軍勢によって攻められました。難攻不落の堅城といわれていましたが、兵力に勝る豊臣方の攻撃は苛烈を極め、1日で落城しました。城郭の規模と豊富な出土遺物から、戦国時代の名城として知られています。

北条氏照による 戦国時代のまちづくり

由井領内における伝馬^{てんま}の導入と三宿

氏照が支配した由井領内での伝馬関係史料が残っています。北条氏が平井郷(現日の出町)の伝馬奉行宛に「伝馬定」と題する朱印状を出して、伝馬の提供を命じました。伝馬とは、人や物資を、街道上に設けられた宿(宿場、宿駅)から次の宿まで馬で運び届けることです。北条氏は領国全体の主要な街道沿いの城下町などの町場を一定間隔で宿に指定し、伝馬を負担させました。負担するのは基本的にはその地で店や運送を営む町人などでしたが、伝馬を提供する責任者は問屋でした。そのため、支城主は宿の有力な商人に問屋の権利を認め、伝馬制度を維持し、また、宿内の喧嘩・紛争などの解決にもあたらせていました。さらに街道上には市が開設されました。

滝山城の城下には横山・八日市・八幡の城下町がありました。永禄12年(1569年)10月24日の書状では、氏照が滝山城に襲来した武田軍に対し、「宿三口」へ軍勢を出して戦ったと書かれています。この「宿」は当城下町を指し、「横山宿」「八日市宿」のように呼ばれていたことがわかります。この三宿の名称は八王子城への移転後も継承されています。

八王子城のくらし

八王子城跡の御主殿跡は、落城後に徳川氏の直轄領となり、明治時代以降は国有林であったことから、現在まであまり人の手が入らず、落城当時のままの状態で保存され、遺構の状態も良好でした。そのため、大規模な礎石建物跡などの遺構が発掘され、国産の陶器や中国製磁器類をはじめとする多くの遺物が出土しました。中でもベネチア産のレースガラス器は、全国で唯一、八王子城跡でしか出土されていない貴重なものです。また、平成25年(2013年)の調査では、池を伴う庭園遺構が確認されました。茶道具、香道具などの品々もあり、これらの出土品から、北条氏の文化水準の高さをうかがい知ることができます。



青花皿

(すべて八王子城跡から出土)



梅瓶



レースガラス器



レースガラス器レプリカ



香炉



天目碗



青花碗

主な構成文化財

①八王子城跡



【国史 日本遺産】(元八王子町三丁目ほか)

北条氏照により築城された小田原北条氏最大級の支城です。現在は、戦国末期の石垣をはじめとする遺構が復元・整備され、御主殿や御主殿入口部の虎口も整備されています。平成18年(2006年)に、日本100名城に選定されました。

②滝山城跡



【国史 日本遺産】(高月町ほか)

大石氏が居城した後、北条氏照が入城し、由井領支配の拠点となりました。国内有数の中世城郭で、空堀・土塁・井戸などの遺構が良好に残存しています。平成29年(2017年)に続日本100名城に選定されました。

④大石氏居館跡



【市史】(下柚木)

「大石氏居館跡」として市史跡に指定されている永林寺の開基は、滝山城主大石定久で、開山は定久の叔父長純と伝わっています。定久は氏照に家督を譲った後、この地に隠居して真月齋と名乗ったといわれています。なお、『新編武蔵風土記稿』では「由木氏邸跡」と紹介されています。

③大善寺



【大谷町】

大善寺は、北条氏照が讀牛秀(よみうしゅう)に帰依して開基となり、永禄5年(1562年)滝山城内に創建しました。北条氏照が八王子城へ移った際にも共に移転したといわれています。八王子城落城の際に寺も焼失、大横町へ移転しました。その後、大和田町へ移転し、昭和56年(1981年)大谷町に本堂が完成しました。

⑤横山党根拠地



【都日】(元横山町二丁目)

横山党は、平安時代末期から鎌倉時代前期にかけて存在した武蔵国の最大規模の武士団です。八幡八雲神社境内付近一帯が横山党根拠地であったと考えられ、横山党の始祖横山義孝を祀った横山神社があります。

⑥広園寺境域



【都史】(山田町)

甲斐国向嶽寺(山梨県甲州市)の峻翁山(しゅんのおうさん)が開山、大江親親が開基といわれている臨済宗の寺です。参道の近くの「杵形」に、大江氏の屋敷があったと伝わっています。八王子城攻めの戦火や元禄時代の火災によって堂舎が失われましたが、江戸時代中期に復興された建物が現存しています。



国史：国指定史跡
日本遺産：日本遺産構成文化財

都史：都指定史跡
都旧：都指定旧跡

市史：市指定史跡



⑦片倉城跡



都史

〔片倉町〕

室町時代、大江流長井氏が居城していたといわれています。小田原道(国道16号)と北野街道を押える要衝です。空堀などの名残が見られます。現在は、片倉城跡公園となっています。

⑧八王子神社



日本遺産

〔元八王子町三丁目〕

八王子神社が建立されている深沢山に北条氏照が八王子城を築いた際、神社に祀られる八王子権現を城の守護神としたといわれています。また、現在の市名の起源は、ここに由来しています。

⑨相即寺



〔泉町〕

八王子城の北東に位置することから、かつては城の鬼門除けとしての役割を担っていたといわれています。同寺の地蔵堂には、八王子城落城の時に戦死した者たちを弔うために作られた地蔵が祀られています。

⑩宗関寺



〔元八王子町三丁目〕

永禄7年(1564年)にト山舜悦が開山し、北条氏照が開基となって建立されたといわれています。天正18年(1590年)の八王子城落城の際に本堂などの建物は焼け落ちましたが、氏照百回忌の折に新築され、氏照の法名から「宗関寺」と命名されました。

⑪浄福寺城跡(新城跡)



市史

〔下恩方町〕

案下城、松竹城、千手山城、新城ともいい、大石氏が案下道(陣馬街道)を押さえるため16世紀前半に居城したと考えられています。

⑫八王子城跡御主殿出土品



日本遺産

平成4～5年度(1992～93年度)に行われた発掘調査では約7万点(2,436個体)の遺物が出土しました。出土品の大半は中国製の皿でした。この他に国産の皿や碗、甕、建物に使われた釘や火縄銃の弾や弾の鋳型など多種多様な遺物が出土し、戦国時代の生活や文化、城での戦いの様相がうかがえます。

文化財の保存・活用事例

八王子城跡ガイダンス施設

八王子城の歴史や城主北条氏照の人物像などを、遺物やパネル、模型等で紹介しています。また、八王子城とその時代を解説した映像が見られる、ガイダンスシアターもあります。



子ども手作り甲冑教室

毎年、八王子城跡ガイダンス施設で、子どもたちがオリジナルの甲冑を作りながら、甲冑の仕組みや戦国時代の八王子について学ぶ「子ども手作り甲冑教室」を、NPO法人八王子城跡三ツ鱗会の協力で開催しています。同法人は、姉妹都市である小田原市や寄居町との交流を重ねながら八王子城の歴史を今に伝える活動を行っています。

滝山城・城攻めガイド ～滝山合戦450年記念～

滝山城主北条氏照は、永禄12年(1569年)に武田信玄と滝山城で攻防戦を繰り広げました。令和元年(2019年)は、この攻防戦から450年の節目の年にあたり、これを記念して同年10月には「滝山城・城攻めガイド(主催：NPO法人滝山城跡群・自然と歴史を守る会)」が開催されました。同法人は、滝山城跡の保存・活用の推進団体で、遺構景観の回復作業やガイドツアーなど様々な活動を行っています。



元八王子北条氏照まつり

八王子城を築城した「北条氏照」をたたえるイベントとして、元八王子地区町会自治会連合会が主催となり、毎年開催されています。北条氏照まつりのメインとなる「北条氏照まつり武者行列パレード」は、星槎国際高等学校から市立元八王子小学校までの高尾街道沿いを武者隊などが練り歩きます。